



北区エバンジェリスト検証授業 ③ 低学年でのICT活用事例

「きたコン」とえんぴつ、どちらも大切

～十条小学校2年生国語「書いたら、見直そう」検証授業～

9月の北区エバンジェリストの先生による検証テーマは低学年のICT活用を進めることです。十条小学校・瀬下俊吾先生が担当された2年生国語「書いたら、見直そう」の授業では、低学年らしい元気いっぱいの子どもたちが、「きたコン」とえんぴつを行き来しながら話合いを通して学んでいく姿が印象的でした。

▼2つのねらいをつないで

この日の授業には2つの学習目標がありました。1つは国語の学習として、自分の書いた文章を読み返し、間違いを直したり、言葉のつながり確かめたりできること。

2つめは情報活用能力として、「きたコン」のキーボードを使って簡単な修正を行うことです。国語の力とICT活用の力をバランスよく組み合わせた実践でした。

▼デジタルとアナログのよさを実感

参観していて心に残ったのは、デジタルとアナログの両方を上手に取り入れていた点です。文章を編集するには「きたコン」が便利ですが、紙に書くことも国語の力としては欠かせません。どちらか一方ではなく、場面に応じて最適な方法を選ぶ姿勢が、子どもたちの学びを確かなものにしていました。



先生は、ヒントカードを用意するなど細やかな工夫をされていました。そのおかげで児童は迷うことなく課題に取り組めていました。

▼仲間と学び合う力

授業では3人班での活動が多く取り入れられていました。友達と相談しながら取り組むことで、教え合いが自然に生まれます。

ある場面では、子どもの一人が「〇〇さんが発見したよ!」と友達の気づきをクラスに広めると、教室全体が「なるほど!」という空気に包まれました。先生はポイントを色分けして板書してあるので、児童同士でも伝えやすく理解しやすいようになっています。仲間から学び、仲間に伝えるという経験が、子どもたちの大きな自信につながっていくことでしょう。



▼子どもたちの声から

授業の振り返りには、子どもたちの素直な学び喜びが表れていました。

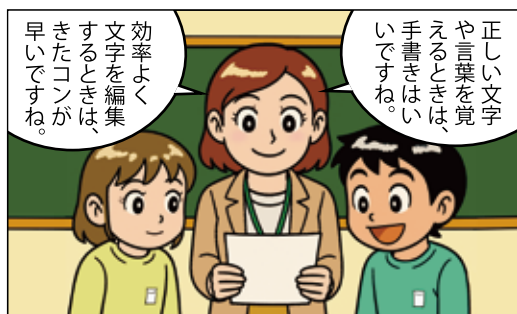
- ・「かくよりもすぐなおせたからたのしかった。」
- ・「まちがえても一つのボタンをおしたらなおることがわかった。」
- ・「ともだちにおしえるのがむずかしかったけど、たのしかった。」
- ・「まえよりもきたコンをつかえるようになってよかった。」

間違いを恐れるのではなく、修正できることを楽しむ姿勢や、友達に伝える難しさを感じながらも挑戦している様子が伝わります。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



▼おわりに

今回の授業は、国語の学びとICT活用をつなげることで、子どもたちの学び方をより広く深めるものでした。えんぴつと「きたコン」、どちらも子どもたちの成長を支える大切な道具です。保護者の皆さまも、ぜひご家庭で「今日は『きたコン』をどんなことに使ったの?」と聞いてみてください。子どもたちの学ぶ喜びを共有するきっかけになることでしょう。